

社会福祉援助技術演習B			科目コード	CN4083
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
3	SR(演習)	3年以上	三浦 剛/関川 伸哉/相場 恵/ 石田 力/川口 正義ほか	

■履修登録条件

「演習A」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。
 ※その他、履修の前提科目は『学習の手引き』3章をご参照ください。
 ※本科目は2026年度までの開講となります。2027年度以降は、新カリキュラムの演習をご受講いただきます。

※2009年度以降入学者に対して開設されている科目です。2008年度以前入学者、福祉心理学科の方は、履修することはできません。

※社会福祉士を目指す方々を対象とした講義となります。

科目の概要

■科目の内容

社会福祉士として求められる専門的資質、専門知識、専門技術の習得を図ることを目的とします。社会福祉士に必要なとされる専門知識、専門技術の習得や専門職として求められる相談援助の一連の過程について、具体的な事例検討等を通してその内容を熟知します。また、支援計画立案に関する基本的な知識・技術の習得を図ることに焦点をあてながら、併せて社会資源の活用や、利用者理解、そして社会生活上の課題に対する理解を深めていくことを目的とします。

■到達目標

- 1) 一連の相談援助過程を具体的なイメージを持って説明でき、その基本的な技術を演習場面において実践できる。
- 2) 事例などから支援計画を作成することができる。
- 3) 社会資源の活用やネットワーク形成の技術について具体的に説明できる。
- 4) プロセス評価、効果測定についてその方法を説明することができる。
- 5) 社会福祉援助活動で使用される基本的な言葉の意味を的確に理解し説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目の評価基準・単位の認定方法

実践や説明40%＋スクーリング試験60%で評価します。

※スクーリング試験は、ソーシャルワーク実践に関する基本的な知識の確認テスト（○×式や用語等の記述）となります。そのため、社会福祉援助技術の関連知識について、復習を十分に行ったうえでの受講を推奨します。この確認テストにおいて合格点（点数60点以上）に達しない場合は再履修となります（持込不可・追試験等はありません）。

※単位修得できなかった方が再受講する場合、スクーリングの申込みはあらためて必要ですが、既に合格済みのレポートは有効となります。

■教科書・参考図書

【教科書】（「演習 A・C」と共通）

長谷川匡俊・上野谷加代子・白澤政和・中谷陽明編『社会福祉士相談援助演習（第2版）』中央法規出版、2015年（初版でも可）

（最近の教科書変更時期）2015年4月

※「演習A」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用します。旧版を所持している場合も受講に支障がないよう資料を配付します。

スクーリング

■演習 B スクーリング受講条件

下記(1)(2)を満たしていることが必要です。

- (1) 3年生以上の方、または10月生は9/15時点で、4月生は3/15時点で2年生の方。
- (2) 受講判定日（11月開講分：9/15・10/15、5月開講分：3/15・4/15）までに、下記の①～⑤の条件を達成していること。
 - ① 「社会福祉援助技術総論」「社会福祉援助技術演習A」の2科目分すべてのレポート提出。
 - ② 上記2科目以外に社会福祉士・指定科目のなかから4科目分すべてのレポート提出（個別単位認定科目を除く）。
 - ③ 「社会福祉援助技術演習A」のスクーリング試験合格。
 - ④ 「演習B」の1単位めレポートの提出。
 - ⑤ （入学後1年以上経過した方は）認定単位を除き20単位以上の修得。
 - ⑥ 社会福祉士養成課程履修費が納入済みであること。

■演習 B スクーリング申込手続

申込時の注意点

- ・『With』（7月号や1月号を予定）巻末の申込用紙を郵送すること。
- ・受講希望日程は、必ず2カ所を選択すること（9/15申込締切分のみ）。
- ・申込後の希望の変更は不可。

- ・受講者数により開講を見合わせる場合があります。その際は他会場にて受講していただきます。

各申込日について

- ・ 9 / 15 締切の申込 → 11月開講分 3 / 15 締切の申込 → 5月開講分

■スクーリング受講クラスの決定方法

申込締切日までに受講条件を満たした方は、希望日程のいずれかで受講できる予定です。それ以降に条件を満たした方は、希望日程に空きがあれば調整しますが、定員に達している場合は無作為に振り分けます。教員を指定することはできません。

※申込書に希望を2カ所記入されていない方、提出物や納入金の遅延やスクーリングへの遅刻など、学習上のルールが守れなかったことがある方の優先順位は下がります。

■スクーリングで学んでほしいこと

- ・社会福祉士に必要とされる専門知識、専門技術の習得や専門職として求められる相談援助の一連の過程
- ・支援計画立案に関しての基本的な知識・技術
- ・社会資源の活用、ネットワーク形成の知識・技術
- ・社会生活上の課題、環境の中の個人に対する理解の深化
- ・社会福祉援助活動で使用される基本的な言葉の意味の理解

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	相談援助場面及び援助過程を想定した実技指導①	インテーク・アセスメント
2	相談援助場面及び援助過程を想定した実技指導②	プランニング・支援の実施
3	相談援助場面及び援助過程を想定した実技指導③	モニタリング・効果測定
4	相談援助場面及び援助過程を想定した実技指導④	終結・アフターケア
5	事例を使用した実技指導①	支援計画の立案に関する事例検討
6	事例を使用した実技指導②	アウトリーチ、ネットワーキング、チームアプローチ
7	事例を使用した実技指導③	社会資源の活用（調整・開発含む）
8	サービス評価法に関する学習 質疑応答	サービス評価法の実際
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

上記テーマに基づき、配付資料を活用しながら、講義及びロールプレイを中心に演習を進めていきます。最終コマでは、振り返りとして記述式（一問一答および選択問題等）の試験を行います。「演習A」とは異なり、基本的な知識を問う試験内容になっています。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

『新・社会福祉士養成講座 7・8 相談援助の理論と方法』などのテキストを確認しておくこと。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	第4章 実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑨ 医学モデル・社会モデル・生活モデルに関する相談援助演習	医学モデル・社会モデル・生活モデルに関する相談援助について理解する。 キーワード：医学モデル・社会モデル・生活モデル	医学モデル・社会モデル・生活モデルの着眼点、考え方、介入の違いについて理解しましょう。また、生活モデルについて、人と環境の相互作用に着眼した支援のあり方とはどういう支援のことなのかを理解しましょう。
2	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑩ ストレングスモデルに関する相談援助演習	ストレングスモデルに関する相談援助について理解する。 キーワード：ストレングス、社会資源	利用者の「強さ」に焦点化したアセスメントとはどのようなことか、利用者自身が問題解決の主役であること、また、利用者が自身のさまざまな能力・強さや資源をソーシャルワーカーとの協働のなかで活かし、生活問題を解決することを理解しましょう。
3	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑪ 心理社会的アプローチに関する相談援助演習	心理社会的アプローチに関する相談援助について理解する。 キーワード：状況の中の人間、心理社会的診断（アセスメント）、持続的支持、ジェノグラム、エコマップ	「心理社会的診断」（アセスメント）の視点について理解しましょう。
4	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑫ 問題解決アプローチに関する相談援助演習	問題解決アプローチに関する相談援助について理解する。 キーワード：動機づけ、能力、機会	利用者の抱えている問題、利用者の問題に対処する力に焦点をあて、その人が置かれている状況、問題解決アプローチの考え方を理解しましょう。
5	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑬ 危機介入アプローチに関する相談援助演習	危機介入アプローチに関する相談援助について理解する。 キーワード：危機介入、共感的理解、アセスメント	危機的状況への共感的理解について、また、アセスメントについて理解しましょう。
6	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑭ 行動変容アプローチに関する相談援助演習	行動変容アプローチに関する相談援助について理解する。 キーワード：行動への焦点	利用者の行動や認知の特性に焦点をあて、その人がおかれている状況を理解しましょう。また、事例を通して、行動変容アプローチの考え方を理解しましょう。
7	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑮ 認知行動療法に関する相談援助演習	認知行動療法に関する相談援助について理解する。 キーワード：認知行動療法、生活技能訓練（Social Skill Training:SST）	認知行動療法の一つである生活技能訓練（Social Skill Training:SST）について理解しましょう。また、人の認知と行動、そして環境が相互に影響しあっていることを理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
8	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑩ エンパワメントアプローチに関する相談援助演習	エンパワメントアプローチに関する相談援助について理解する。 キーワード：エンパワメント、四つの次元の介入モデル	多次元でのアセスメントや多面的な支援について理解しましょう。利用者自身がパワーを獲得していく過程を学びましょう。
9	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑪ ナラティブアプローチに関する相談援助演習	ナラティブアプローチに関する相談援助について理解する。 キーワード：ナラティブアプローチ、ドミナントストーリー、オルタナティブストーリー	「無知の姿勢」をとることの意義について理解しましょう。その上で、利用者が語るドミナントストーリーの弊害と、オルタナティブストーリーの可能性を理解しましょう。
10	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑫ 家族システム論に関する相談援助演習	家族システム論に関する相談援助について理解する。 キーワード：家族システム論、交互作用	個人に焦点をあてず、個人を取り巻く家族システムに焦点をあてた援助方法について理解をしましょう。ビネットを通して、その援助方法の方向性を考えてみましょう。
11	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑬ ケースマネジメントに関する相談援助演習①	ケースマネジメントに関する相談援助について理解する。 キーワード：ケアプラン、インテーク、アセスメント、プランニング、モニタリング、終結、アフターケア、ケアプランの見直し	ソーシャルワークの展開過程を事例を通して学びましょう。キーワードそれぞれの段階で、行うべき内容を理解しましょう。
12	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑭-1 ケースマネジメントに関する相談援助演習②	ケースマネジメントに関する相談援助について理解する。 キーワード：ケアプラン、インテーク、アセスメント、プランニング、モニタリング、終結、アフターケア	ソーシャルワークの展開過程を事例を通して学びましょう。キーワードそれぞれの段階で、行うべき内容を理解しましょう。
13	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑭-2 ケースマネジメントに関する相談援助演習③	ケースマネジメントに関する相談援助について理解する。 キーワード：ケアプラン、インテーク、アセスメント、プランニング、モニタリング、終結、アフターケア	ソーシャルワークの展開過程を事例を通して学びましょう。キーワードそれぞれの段階で、行うべき内容を理解しましょう。
14	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑮-1 ケアプラン（介護保険制度上）に関する相談援助演習①	ケアプラン（介護保険制度上）に関する相談援助について理解する。 キーワード：ケアプラン、ケアプランの見直し	施設入所の認知症高齢者のケアプランの見直しについて理解しましょう。
15	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑮-2 ケアプラン（介護保険制度上）に関する相談援助演習②	ケアプラン（介護保険制度上）に関する相談援助について理解する。 キーワード：ケアプラン、ケアプランの見直し	施設入所の認知症高齢者のケアプランの見直しについて理解しましょう。

■レポート課題

※1課題につき1冊のレポート提出台紙を使用すること。

※レポートの提出方法については後述の「■レポートの提出方法・期限」を参照のこと。

1 単位め	(スクーリング事前課題=できるだけ9/15 or 3/15まで、遅くともスクーリングの各受講講定日(10/15 or 4/15)までに送付) 相談援助実践における記録の意義と具体的記述方法についてまとめてください。また、同じく相談援助におけるスーパービジョンの目的、機能、あり方についてまとめてください。 (担当: 相場恵)
2 単位め	(スクーリング受講前の提出を推奨=遅くとも後述の提出期限までに) ソーシャルワークの枠組みを説明し、次に、ソーシャルワークの過程に、①個別支援の事例、②地域支援の事例を、それぞれあてはめて、具体的に述べなさい。 (担当: 三浦剛)
3 単位め	(スクーリング事後課題=後述の提出期限までに) 2006(平成18)年に改正、2007(平成19)年に公布された「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正に伴う、今後の社会福祉士の役割と課題についてまとめてください。(担当: 関川伸哉)

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

※レポート作成に当たっては、ご自身の経験だけでなく、教科書をよく読んだうえで取り組んでください。3単位めは3つ以上の文献にあたってください。ただし、教科書や文献の丸写しは避けてください。

1 単位め アドバイス

ソーシャルワーク実践における記録の意義とはなんでしょうか。まず、何故ソーシャルワーク実践において記録が必要なのか考えてみましょう。また、記録形式についてまとめてください。次に、スーパービジョンについてです。スーパービジョンは、ソーシャルワーク実践に関して、知識・技術・倫理等が十分備わっていないワーカーに対してもなされるものですが、経験豊かなワーカーにもその必要性があります。ソーシャルワーク実践において、実践に携わるすべてのワーカーに対して、何故スーパービジョンが必要なのでしょう。そのスーパービジョンの目的、機能、あり方についてまとめてみましょう。また、記録とスーパービジョンの関係性も併せて考察してみましょう。

2 単位め アドバイス

ソーシャルワークは、人と環境の交互作用に視点をおくことが特徴です。生態学的視点や生活モデルについて、しっかり理解しましょう。そして、ソーシャルワークの過程(プロセス)も、個別支援、地域支援(地域づくりや社会資源開発などの側面)であっても、基本的には同じです。ソーシャルワークが、ミクロ・レベルからマクロ・レベルまでの連続体であることを理解し、事例を用いて具体的にイメージできるようにしましょう(「2単位めレポート評価の基準」を参考にしてください)。

【2 単位め評価の基準】(レポートに取り組む前に参考にしてください)

「再提出」の場合

1. 題意が把握できていない
2. 文章の意味が通らない表現である
3. (引用表示がされていたとしても) レポートのほとんどが文献、ホームページなどの資料からの引用である
4. その他 (コメント参照)

1. をふまえた上で

ソーシャルワークのプロセスに個別支援、地域支援の事例が、ソーシャルワークの視点やプロセスの共通性などを踏まえて、適切にあてはめられている。
「良」70 点から 79 点のレベル

必ず 1. 2. をふまえた上で

ソーシャルワークがマイクロ・レベルからマクロ・レベルへの連続体であることや、その枠組みやプロセスの特徴、共通性などを、事例から説明できている。
「優」80 点から 89 点

これまでの基準に加え、ソーシャルワークの枠組み、プロセスが具体的にイメージできており、自分のことばで説明できている。
「秀」90 点以上のレベル

1. ソーシャルワークの枠組み、プロセスの定義、内容などについてテキストなどの「文献をまとめている」レベル。事例も題意に対して適切ではない。
「可」60 から 69 点のレベル

<コメント (あれば)>

***「引用・出典明示」について**

A: 引用、註などの表示も適切 B: 表示されている C: 表示されていない、または不適切 (「学習の手引き」を参照すること)

3 単位め アドバイス

はじめに、2007 (平成19) 年公布の改正法にいたる背景について整理してください。その後、課題について客観的にまとめてください。その際に、事実と各自の考察 (考え) をしっかり分けて作成するように心掛けてください。具体的には、事実や他者の意見に

は参考文献番号を本文に記載してください。

- ・ レポート作成の際には、3 つ以上の参考・引用文献を用い、最後に記載してください。
- ・ レポート作成の際、引用個所がわかるように本文中に引用文献番号を必ず記載してください。
例) 2023年厚生労働省〇〇調査によれば、〇〇〇〇とされている¹⁾。
- ・ 必ず、以下の章立てを行ってください。
 1. 法改正にいたる背景について
 2. 改正の主な〇〇について
 3. 今後の社会福祉士の役割について
 4. 今後の社会福祉士の課題について
 5. まとめ

引用・参考文献

注意) HP 以外の参考・引用文献も使用してください。

【参考文献記載方法：書籍の場合】

- 1) 福祉 太郎・他『ソーシャルワークの理論と実践』東北出版株式会社、22-34、2016年

【3 単位めレポートの評価・判定について】

評価項目について

本課題における主な評価項目は以下の 5 点です。

評価方法は、いずれも「A・B・C」の 5 段階評価 (・はその中間) になります。

- 1) 法改正の明確な背景が論じられているか。
- 2) 法改正の内容が適切に整理されているか。
- 3) 社会福祉士に期待される役割について論じられているか。
- 4) 社会福祉士に関する今後の課題について論じられているか。

5) 適切にまとめられているか。

以上の評価項目を基本に以下のように判定します。

判定について

・【可】及び【再提出】は、いずれかの条件が1つでも該当した場合にあてはまります。

【再提出】

- ・指定の章立てが行われていない。
- ・評価項目のうち、Cが2個以上の場合。
- ・明らかに課題が把握できていないと判断した場合。
- ・内容が不十分または文章表現が不適切であると判断した場合。
- ・参考文献が記載されていない。または、HPの文献のみの場合。
- ・その他（コメント参照）。

【可】

- ・参考文献数が指定の数より少ない場合。
- ・評価項目で、B未達が2個以上の場合。

【良】

- ・評価項目で、全てがB以上の場合。

【優】

- ・良の条件の上で、評価項目でBを超える（Bを含まない）項目が3個以上の場合。

■参考図書

1 単位め

- 1) 福山和女編著『ソーシャルワークのスーパービジョン』(MINERVA 福祉専門職セミナー14)、ミネルヴァ書房、2005年
- 2) 副田あけみ・小嶋章吾編著『ソーシャルワーク記録——理論と技法』誠信書房、2006年

2 単位め

- 1) 日本社会福祉士会編『障害者ケアマネジメントのための社会資源開発』中央法規出版、2001年（図書館を利用してください）
- 2) 白澤政和・竹内孝仁・橋本泰子監修『ケアマネジメント講座（1）ケアマネジメント概論』中央法規出版、2000年

■レポートの提出方法・期限

- ・1単位につき1冊のレポート提出台紙を使用してください。
- ・各レポートの字数は2,000字程度ですが、最長4,000字程度まで可です。
- ・各レポート提出台紙には前述の「**■レポート課題**」記載の担当教員名を記入してください。

1 単位めレポートは、スクーリング受講判定日までに提出。

2 単位めレポートは、スクーリング受講許可通知後から受講後11/30までに提出。

3 単位めレポートは、スクーリング受講後11/30までに提出。

※実習免除者の2・3単位めのレポートは、「演習C」スクーリング受講申込締切日までに提出。